

短節間ミニトマトの房どり栽培

短節間ミニトマトとは

- ◇ 従来のミニトマトに比べ茎の長さ(節間)が短く、同じ段数の花房が実るまでの草丈が短い。
- ◇ 花房の長さ(実と実の間隔)が短くなるので、ぶどうのようなまとまった房になる。
- ◇ 裂果しにくいいため、房ごと収穫しやすい。
- ◇ 糖度は従来のミニトマトとほぼ同じ。
- ◇ ぶどうのように、おやつ感覚で食べられる。



ブドウの房のような短節間ミニトマト



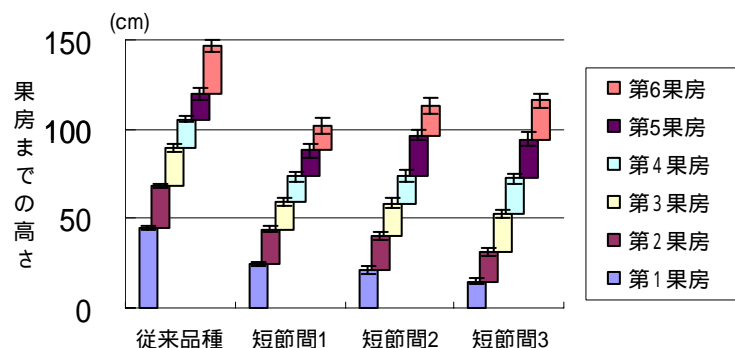
短節間トマトの着果状況

品種登録は

現在、桔梗交41号、42号、43号という系統番号名で系統適応性試験が行われており、平成20年以降、品種登録される見込みである。

栽培のポイントは

- ◇ 茎が曲がりにくくまっすぐに伸びやすいため、直立させて誘引し、1株10花房程度を収穫する。
- ◇ ハウス栽培では、作型を問わず着果しやすい。
- ◇ 先端の花を落とし、1房16果程度にすると、房どりができる。



短節間ミニトマト系統の果房段位ごとの着果位置
同じ段数で、草丈は7割ですむ